

児童期における支援提供プロセスの 管理に関する演習

医療法人 啓仁会
児童発達支援センター ピノキオの家
児童発達支援管理責任者 有井満美子

児童期における支援提供プロセスの 管理に関する演習

- この科目の獲得目標

児童期における個別支援計画の策定や中間評価と計画の修正等による支援提供のプロセス管理、支援提供に係るマネジメントについて理解する。

- タイムスケジュール

- 1 個別計画作成に関する講義
- 2 個別支援計画の作成演習
 - ・ニーズ整理
 - ・個別支援計画作成
- 3 振り返り・まとめ

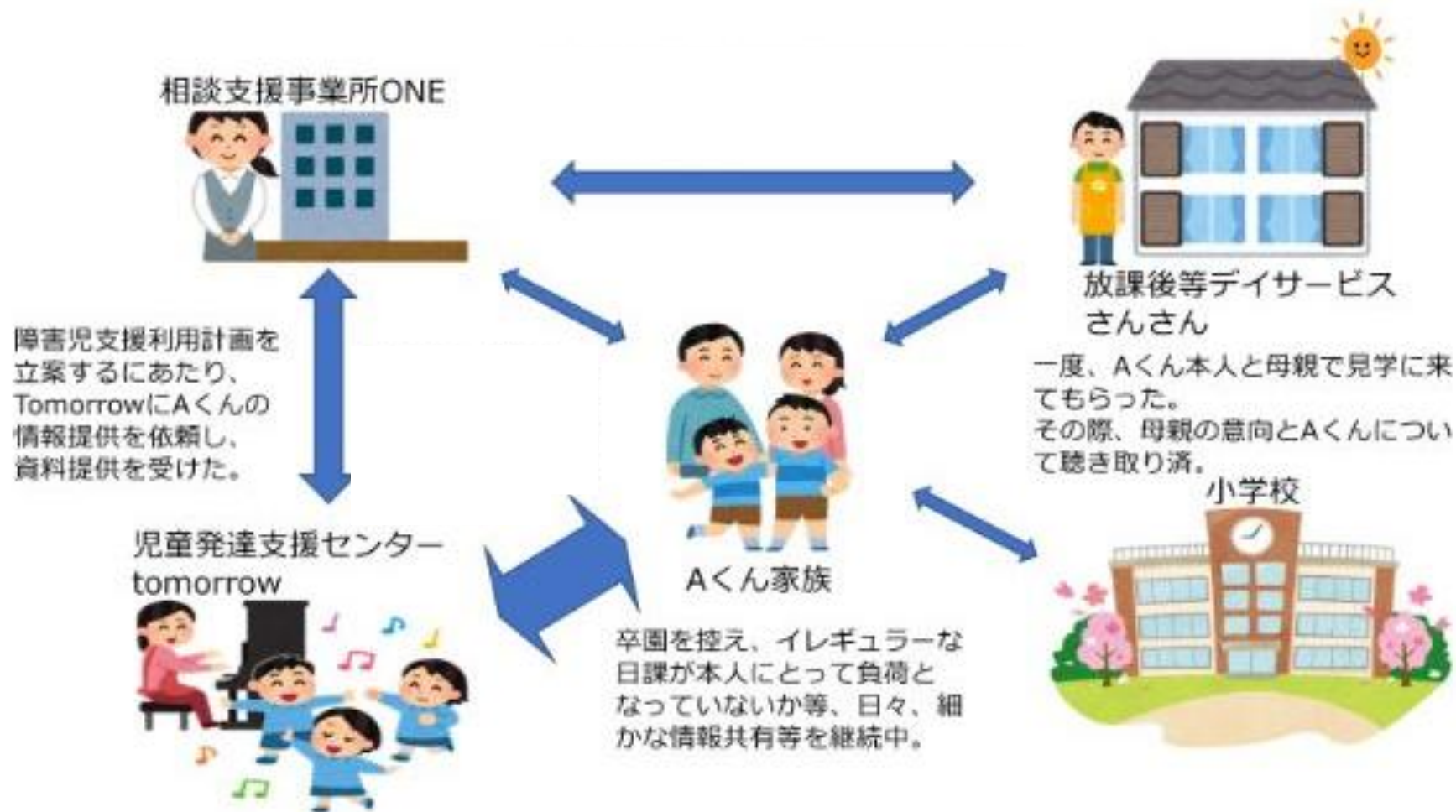
演習の流れ

時間	項目	内容
15分	演習 ガイダンス	演習の目的と演習の流れを説明
50分	ニーズ 課題の 整理表作成	全体講義（事例の再確認・プロセスの説明） グループワーク （ニーズ・意向を把握から、解決すべき課題までの検討）
50分	個別支援 計画作成	グループワーク （総合的な支援方針・長期目標・短期目標・具体的な支援内容等の検討）
25分	振り返り 全体まとめ	グループワーク（グループとして演習振り返り） 全体共有（ニーズ・課題整理と、個別支援計画一例を共有） （モニタリングの重要性について）

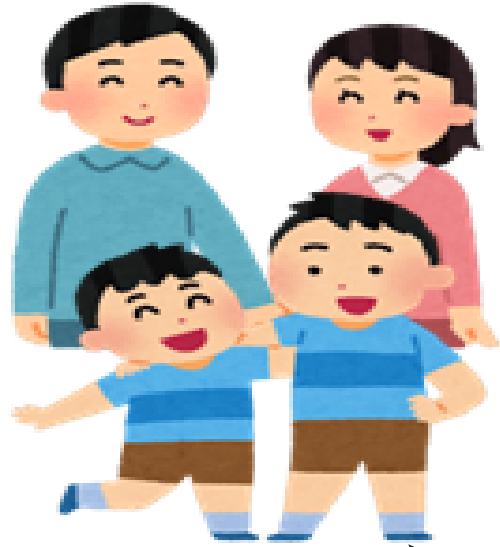
目的：

児童期における
個別支援計画の策定や
個別支援提供のプロセス管理
支援提供に
関係する
マネジメントについて理解する

放課後等デイサービスさんさんの児発管として Aくんの個別支援計画を作成してみましょう



市内の『児童発達支援センターTomorrow』に通所しているAくん。次年度の卒園に向け近隣の小学校に進学予定（兄も在校しており、Aくんと一緒に通える事を楽しみにしている）。



4月からの環境の変化についていけるのか心配だけど、最近成長も感じています。言語面・情緒面での成長を期待しています。兄弟仲がいいのだけれど、兄の負担も心配しています。さんさんでは、学校や自宅ではできない経験をしてほしいです。

お母さん

小学校に行くのもいっぽに行くのもお兄ちゃんがいるし楽しみ！
でも、さんさんに来るのは僕だけなんだよなあ。友達ができるのかな。

Aくん



放課後等デイサービス
さんさん

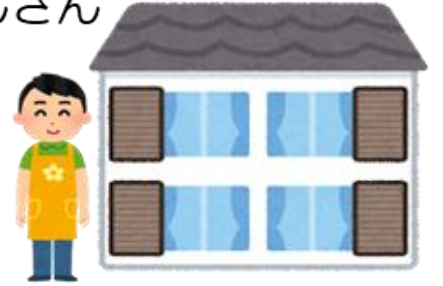
相談支援事業所
ONE



サービス等利用計画書



放課後等デイサービス
さんさん



個別支援計画書

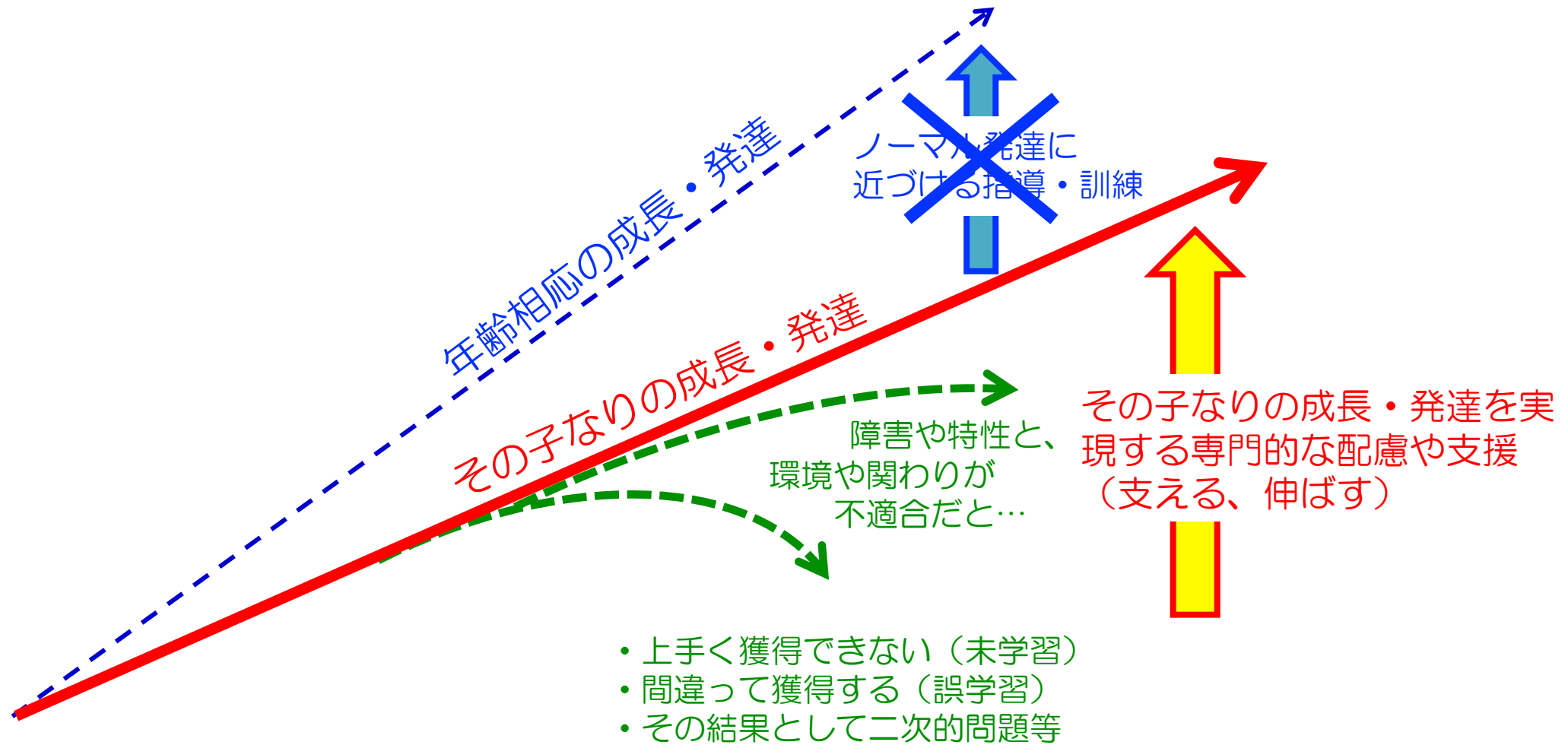


個別支援計画書

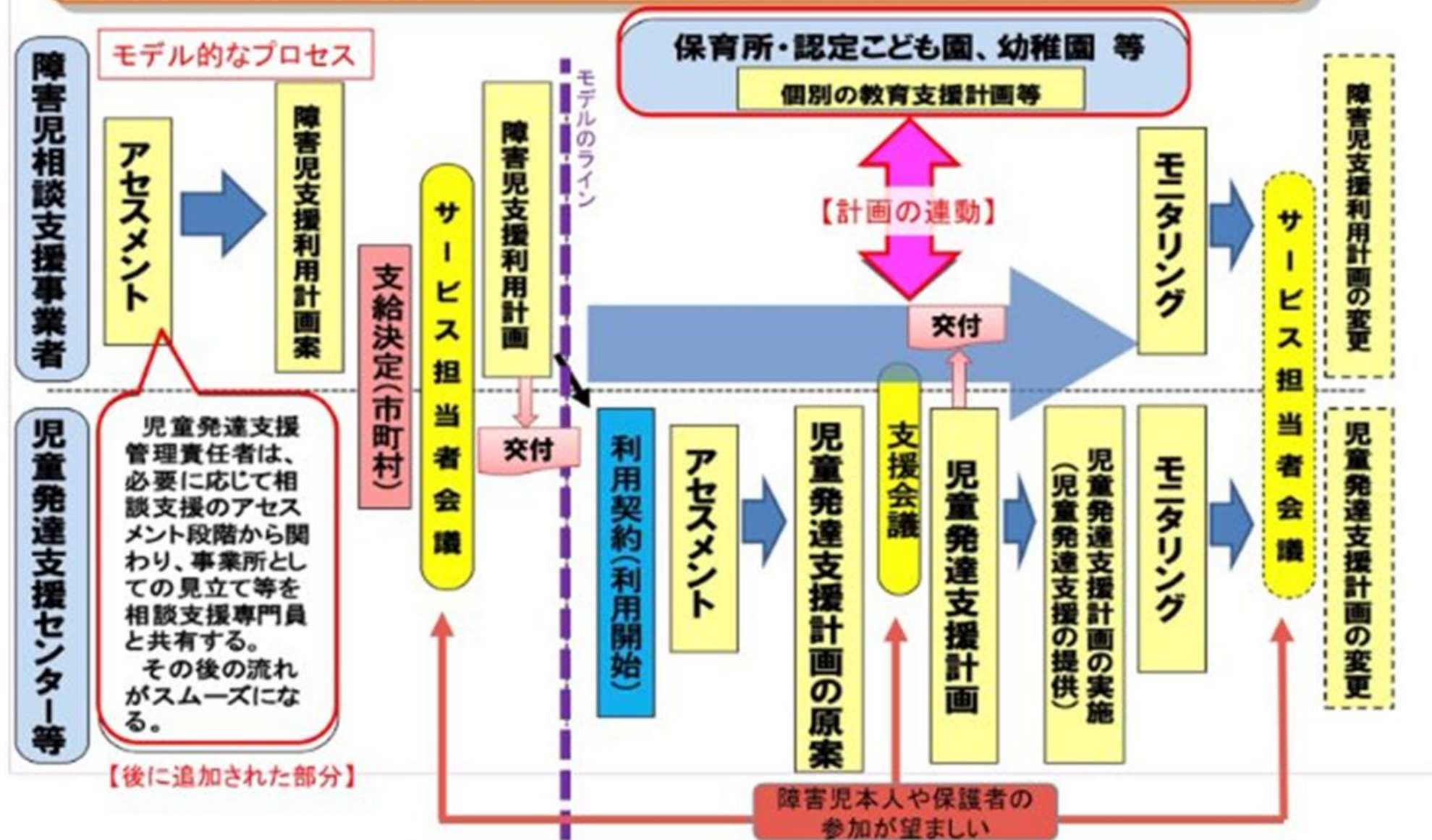
放課後等デイサービス
さんさん



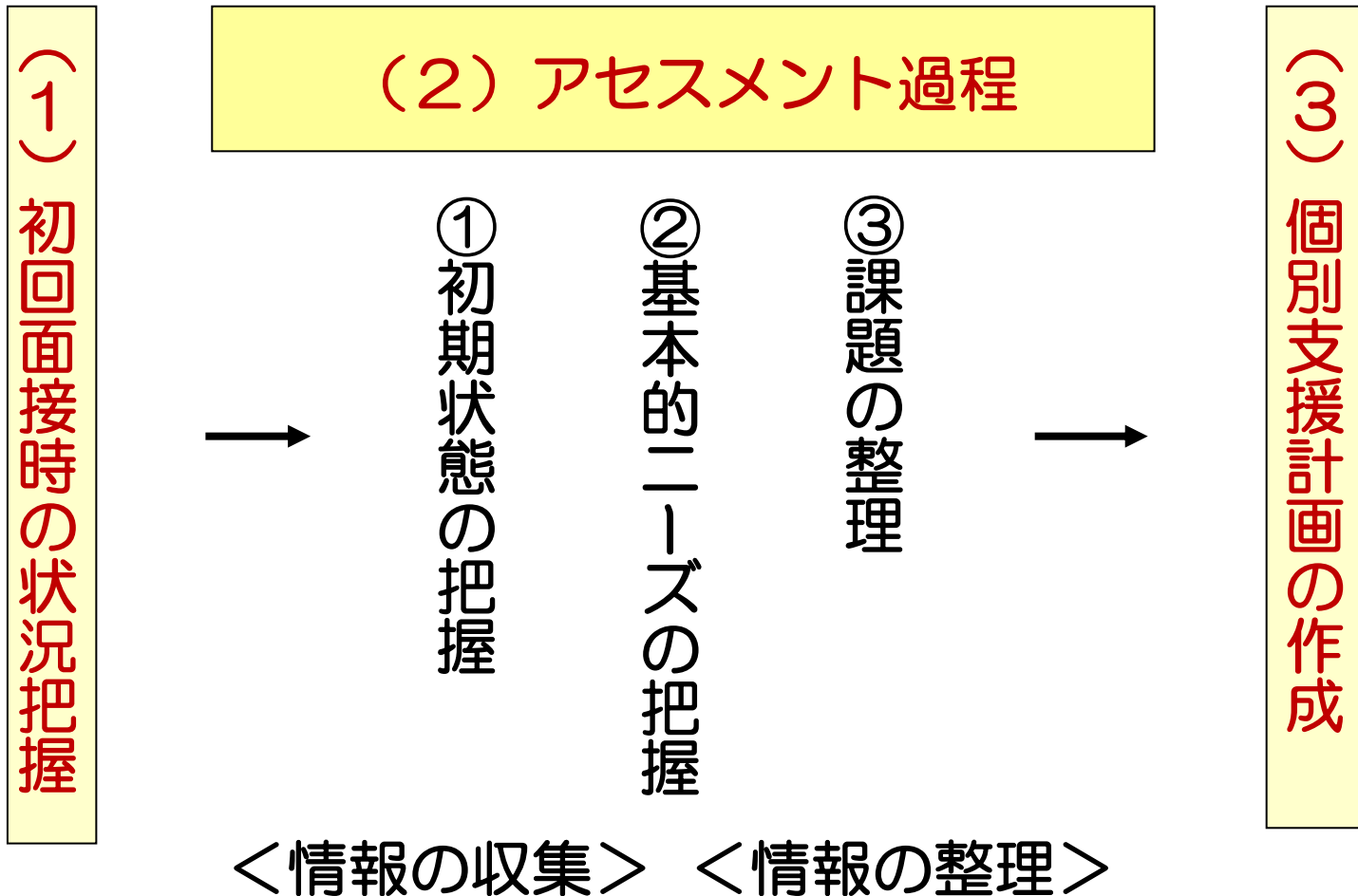
発達支援の考え方（その子の成長・発達を支える）



支援提供の流れ：障害児相談支援事業者と児童発達支援センター等の関係



アセスメントのプロセス



【総合的な支援】

本人支援の5領域の視点等を踏まえたアセスメントを行った上で、生活や遊び等の中で、5領域の視点を網羅した個々のこどもに応じたオーダーメイドの支援が行われるものである。

ニーズ・課題の整理表作成時の留意点（例）

	発達ニーズ・意向等の把握	初期状態の評価 (利用者の状況・環境の状況)	支援者の気になること ・推測できること (事例の強み・可能性)	解決すべき課題
本人支援				
家族支援				
移行支援				
地域連携支援				

ニーズ・課題の整理

ニーズ・課題の整理表作成時の留意点（例）

	発達ニーズ・意向等の把握	初期状態の評価 (利用者の状況・環境の状況)	支援者の気になること ・推測できること (事例の強み・可能性)	解決すべき課題
本人支援	・「誰」が欲した「ニーズ」かを明確に記載し整理することがポイント。	・まずは、聞き取り表、モニタリング情報等に記載されている状況で左記に挙げたニーズに該当する文言を、そのまま抽出する。	「支援者の知識と技量があからさまになる」 ・左記のニーズの把握、状態の評価の内容を基に論理的に記載できるか！	
家族支援	例えば、 ① 保護者のニーズを子どもが欲したように書かないこと	・すでに参考とする書類の記載者（保護者、相談支援専門員、職員等）の主観のもとに記載されている可能性が高いことに留意して読み取る。	・支援者が気になる等と思う根拠は何！	・左記のニーズの記載内容と主語が一致するとは限らない。解決すべき課題の主語を明確化することでどこにアプローチするべきかが定まる。
移行支援	② 支援者から見た発達ニーズ（感覚ニーズや運動ニーズ）もわかること		・障がい特性や家族像、地域資源等の一般的なイメージから推察される「強み・可能性」の記載にとどまらないこと。	・ここで挙げられた記載内容が、「個別支援計画」の具体的な到達目標となりうる。
地域連携支援			・より個別性を持たせるため、具体的に記載する。	

ニーズの把握ってどういうことだろう？

「発達支援」に即したニーズ把握

子ども本人の発達したいというニーズ

- ・生活習慣、社会技能等の自立課題の把握（できる／できない）
- ・運動や言語発達、認知特性の把握（得意／苦手）（強み／弱み）
- ・社会性・行動・情緒の発達課題の把握（未学習・誤学習）
- ・自分の希望（やりたいこと、好きなこと、将来の夢など）

「家族支援」に即したニーズ把握

家族の希望（どう育ててほしいか）、困りごと、不安など

- ・家庭内または外出時に困っていることの把握
- ・子どもの特性に応じた家庭環境、子育て力等の把握

「地域支援」に即したニーズ把握

地域生活を送る上での課題、関係機関の困りごとなど

- ・園や学校、他施設で困っていること
- ・連携や役割分担が必要な機関の把握



Aくんの人生がより豊かになるために
今できることは何か

地域の中で生きている
Aくにとってなにが必要なのか

Aくんの発達ニーズが
どこにあるのか



家族にとっての
真のニーズはなにか

	発達ニーズ・ 意向等の把握	初期状態の評価 (利用者の状況・環境の状況)	支援者の気なること・推測できること (事例の強み・可能性)	解決すべき課題
本人支援	兄ちゃんや友達と一緒に楽しく遊びたい (本人)	友だちとの双方向のやりとりはまだ難しい 集団では他児の動きを見てワンテンポ遅れながら行動	乗り物や、車などAくんの好きなものを通してなら関わりやすいのではないかと 他児への意識や興味が増えて、一緒に遊びたい気持ちが育ってきている	乗り物を使ったゲームや車クイズなど、Aくんの興味に合う遊びに参加し、まずは大人を介して、物を介して他児との関りを深めていきましょう

・「誰」が欲した「ニーズ」かを明確に記載し整理することがポイント。

例えば、
① 保護者のニーズを子どもが欲したように書かないこと

② 支援者から見た発達ニーズ（感覚ニーズや運動ニーズ）もわかること

・まずは、聞き取り表、モニタリング情報等に記載されている状況で左記に挙げたニーズに該当する文言を、そのまま抽出する。

・すでに参考とする書類の記載者（保護者、相談支援専門員、職員等）の主観のもとに記載されている可能性が高いことに留意して読み取る。

・支援者が気になる等と思う根拠は何！

・障がい特性や家族像、地域資源等の一般的なイメージから推察される「強み・可能性」の記載にとどまらないこと。

・より個別性を持たせるため、具体的に記載する。

・左記のニーズの記載内容と主語が一致するとは限らない。解決すべき課題の主語を明確化することでどこにアプローチすべきかが定まる。

・ここで挙げられた記載内容が、「個別支援計画」の具体的な到達目標となりうる。

グループワーク

